

令和6年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 藤松 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、6年生を対象として、令和6年4月18日（木）に、「教科（国語、算数）に関する調査」、文部科学省が指定した日（4月10日から4月30日の間）に「児童質問調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査（国語、算数）

教科に関する調査（国語、算数）

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

(2) 児童質問調査

児童質問調査

- 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

※ 本校の6年生については、単学級ですので個人が特定されないように公表の方法については、配慮しています。

3. 教科に関する調査結果の概要

(1) 全国・本市の学力調査（国語、算数）の結果

本年度の結果	国語		算数	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	9.3	66	9.6	60
全国	9.5	68	10.1	63

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	総合得点で、全国平均をやや上回った。全体的に無答率が低く、文章記述問題でも粘り強く回答していた。
	よくできた問題	表現を工夫しながら想像したことや考えたことを文章に表す、漢字
	努力が必要な問題	目的に応じた話題の選定、主語と述語のつながり
算数	全体的な傾向や特徴など	総合得点で、全国平均をやや下回った。全体的に無答率が低く、複雑な問題や説明を求める問題でも粘り強く回答しようとしていた。
	よくできた問題	問題場面を文字式で表す
	努力が必要な問題	小数の計算、立体図形の性質、速さと道のりなどの数量関係

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問調査結果の概要

質問調査の結果分析	
○「友達の考えを大切にしながら課題解決に取り組んでいる」「友達関係に満足している」「普段の生活の中で幸せな気持ちになることがある」の質問すべてに、全6年生が肯定的な回答をしていた一方で、「自分にはよいところがある」への回答は、全国平均を下回った。友達関係が良好で、穏やかに過ごしているものの、自信を高めていくことが課題である。 ○「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め、整理して発表する活動に取り組んでいる」との回答が、全国平均を大きく上回っており、主体的に学ぶ姿勢が定着してきている。 ○放課後・休日の家庭学習時間については、全国平均を大きく下回っていた。また、平日のスマホやゲームの時間が、全国平均を大きく上回っており、生活の改善が求められる。	

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

- ・主題研究を核として、主体的かつ科学的に課題を追求していく授業づくりをさらに追究する。
- ・授業や補充学習の時間にICTを活用するなど、個別・最適な学びの機会を保障し、算数科を中心に基礎的・基本的内容の定着を図る。
- ・授業における学び合いや児童会活動など、一人一人の活躍の場を創造し、体験の中で自信を高める。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- ・保健学習や学級活動などを通じた望ましい生活習慣づくりを継続・深化させる。
- ・学んだことの定着や習慣化のためにも、引き続き自主学習ノートの取組を推進していく。